

伊13
1833
49





特 13
號 1833
卷 49



心こころをくもあやうか出
 ず。其その神かみのこといつ
 ちぢもあり有ける。それかありと
 系たがひれ心こころをみまま系たがひにま系たがひる
 たるを。焼かぶり録ろくの利と録ろくもて。



七

か^この^こ拂^{はら}ふ^はと。平均^{と平均}する^はや^ら
たて^たた。う^うる^るま^ます^すを^を比^ひこ^こな
を^をけ^け工^工南^南は^は年^年め^め比^ひし^し。や^やり
と^とる^るし^し比^ひの^の生^あれ^れま^まる^る。
去^去る^るや^やひ^ひう^うる^るを^を即^{やく}そ^そ。
即^{やく}そ^そ。

おほくしん母め

皇^{わう}國^{こく}風^{ふう}に^に假^か字^じが^がよ^よう

つ^つて^て。修^{しゆ}飾^{じやく}なく^{なく}り^りれ^れ志^し

く^くる^るを^を。不^ふ所^{しよ}を^をし^しとも^{とも}不^ふさ^さ

ハ^ハし^しは^はこ^こを^をへ^へる^る漢^{かん}学^{がく}

の^の後^ご。あ^あら^らむ^むる^るは^はな^なあ^あら^らず

め^めろ^ろ 了^了え。玉^{いす}纏^まれ^れ 下^下
楫^こり^り 舟^{ふね}人^{ひと}と^とる^る 船^{ふね}も。岩^い
と^とも^も 高^{たか} 祿^{ろく}ニ^ニ 漕^こ北^{きた} 舟^{ふね}を^を
取^とり。流^{なが}して^{して} 之^{これ}あ^あら^らぬ^ぬ こと^{こと}
に^に 舟^{ふね}を。海^{うみ}を^を や^やす^すと。山^{やま}

と^とや^や 山^{やま}の^の 幸^{さいち}と^と あり^{あり} ぬ。

美^いめ^めろ^ろ 舟^{ふね}に^に 於^おけ^け 舟^{ふね}と^と

了^了ろ^ろ 舟^{ふね}へ^へ 舟^{ふね}へ^へ 舟^{ふね}と^と

舟^{ふね}に^に 舟^{ふね}と^と 舟^{ふね}と^と

寛政十一年冬

方廣殿大夫松井西市正兼出羽守

いづれ永喜

喜

繪本古今記五篇抄目録

巻之五

綾ヶ山獄軍之張意

旭生駒山又登る園

柴田修理進勝家之像

小谷方乃像

秀吉大軍討一益活

秀吉御警州白子辺と放火し活ふ園

中河園之助山踏九郎右衛門と斬る園

秀吉奇計破一益活

河園



隴川一葉素名乃城(引)五園

承乃吉園素名若一並活

峯乃城瀧川俊素名乃城之傳圖

素名乃城城之活

秀吉御使番をして中河が中河乃城傳人給入園

素名乃城城乃園

武之卷

摩惠多父乃義勝城活

信若御早馬をして勝家(叔)いと乞園

勝家積雪を日々怒傳園

羽柴柴田張陣賊ヶ山嶽活

佐久間玄蕃長溪街道放火乃園

竹舟吹寄塚体吉郎初市山は佐久間と我園

秀吉御小竹候乃園

秀吉御使乃嶽の要言の教多の世と後々園

物持忠三郎説山路活

新井忠三郎難兵乃体して山路が世に奉る園

山路の監返忠之活

本村隼人本村左治郎と叔入園

山路の監が妻子親族を捕る園

佐久間玄蕃乃城攻火岩山塞活

佐久間玄蕃乃城乃山の林塞は池田可吉川が後年を斬て與る園

三之卷

依久間盛政援大山山塞活

桑山が竹候小國勢の大岩山一押あるを足合と爲國

妙ヶ嶽乃重國回桑山軍復を以て中河と拓國

依久間盛政大岩山の岨と爲國

中河勢卒九回款兵を退退る國

英雄嶽ヶ嶽止勇名活

日國

高山右道岩成捨て故去と爲國

盛政誇勝家下知活

和道は郷民を以て依久間と降條(熊指物)を乞て去る國

妙ヶ嶽之諸壘發勃活

秀吉兵浦如年勇氣乃國

秀吉御に小進發活

農民多食物と持出羽業が軍と助る國

は及本年の宿より内國長濱大垣街道の地理

是角五郎九浦門軍死乃國

秀吉御農民を驅て妙ヶ嶽(押寄)活入國

四之卷

七奉滄三振右刀之活

秀吉御猿馬場と陣と居給入國

原表居即陣(丸)浦門殿と妙ヶ嶽を引去國

飄軍乃馬印額乃英氣を挫ぐ圖

加茂虎之助名乃活

生笹乃指物小兵を恐退しむ圖

加茂虎之助名乃圖

石川兵助戦死の活

後橋市松高名之活

日圖

糟巻助左衛門名之活

日圖

平野隆平名之活

日圖

涌坂新内高名之活

日圖

加茂線市郎名之活

日圖

行切祐傳高名之活

日圖

聖政一騎龍雲の若年陣活

日圖

五之卷

毛受勝助討死之活

毛受勝助の馬印と揚り菜山は隊を立敵を待たぬ圖

赤吉御百世の筆と乞て子面(号)敵の活小圖

毛受勝助勇戦討死乃圖

勝家至府中告別年(号)活

柴田勝家(号)活

柴田勝家(号)活

勝家籠小原城之活

秀吉御の伏兵伏久回番取を捕國

小の庄乃城を囲む國

文荷秋其無利あり乃死入と破る國

紫田勝家三人の女子と秀吉(婿)なる國

勝家自害之活

勝家夫婦辞世乃和歌を詠む國

上村六九勝門自害之活

小原城と月々末森森母子自害の國

徳ヶ嶽勲功之將士歿之活

細河村秘殺の國

侍従信孝自害之活

日國

六之卷

盛政勝久所誅之活

日國

秀吉御官位昇進之活

人加十萬浪華先系

隴川一益蟹は信雄が勢と戦ふ國

秀吉御官位昇進の國

秀吉根柢未寺征伐之活

石原合戦の國

真実已全吉用

石垣城乃國

根来乃解一房竹本家の諸士と戦國

根来寺焼之活

日國

紀伊國平均之活

大田村の城乃妻の國

秀吉と和子浦と松原一終國

日國征伐之活

長曾我部宮内少輔元親の傳

勝頼と政勝本陣城の水乃と割城兵と苦國

桑名尾張門村凡兩の夜城と帯く終國

七之卷

長曾我部元親屬秀吉之籠下活

秀吉長秀次和氣の城を妻國

秀吉云任国白活

秀吉云勝妻云と城を洗し終國

長曾我部元親兼全乃國を衝國

子利休業と忠曾呂利新在湯門担款の國

曾呂利款よて松の拵と後一終國

曾呂利殿下の身と奥で後を得る國

曾呂利が富言乃國

佐々成政及く城之活

長曾我部元親

奥村助左衛門が妻亡卒と劾死國

多田末吉林乃燬後活乃國

ト者軍乃吉凶を以て國

更く誠逆落乃國

成政酒造と活してをを成後國

秀吉云誠中殺向津通川合戦乃活

同者系都乃子郷を以て成政又吉成國

津通川合戦妖怪乃國

八之卷

ぶらり火の説

成政津通川を以てをを成を教とす

ぶらり火乃國

佐々成政降系乃活

蜀山の燄曲論破て奉丸を籠と方物と活き成國

佐々成政降系乃國

秀吉云親を以ての難を以て成後を教とす

大佛殿經始乃活

大坂より後伏見へ材木を接ぎ國

本食真山樺樞とて巨材と畏國

大佛造管園より大石を京都より引入る國

大佛殿成始乃國

編成陸奥守肥後國活

日國 兼法華經の障幕と終る國
聚樂坊幸活

日國

御持管弦の國

舞樂の國

小野大茶會活

日國 二茶會

殿下自茶と息下終る

瓢箪をうけて拵に白湯と着る國

殿下幼狀の活

新左衛門の下女殿下通勢と拜しな國

秀吉云後樂等と他は被物を拜飲し終る國

系勅の諸士宴と連る戯に終る國

分英令場諸候活

秀吉云金銀とまうら諸候に終る國

十一之卷

小條氏京活

小条氏親秀吉云又湯とる國

秀吉云馬船渡小田原活

馬船河津渡とて難風と終る國

秀吉云大軍渡小田原活

河原助於橋下兵備大指物と母衣の國

三宅平季俊後小次郎助を討國

山中堀尾放活

後逸勤兵衛多右衛門

堀秀政智略の國

伴達政宗系小田原活

秀右衛門政宗と引て陣中と見せり終る國

小田原陣中早歎活

小田原乃陣中踊の國

十二之卷

八王子乃城之活

日國

山中山堀守書送藏田下總守活

日國

小田原の城兵欺て強弓の精兵散る國

小田原の城中諸の叛心之活

秀右衛門乃軍兵城外を拵び戯る國

源回秀家小田原氏房へ酒肴と賜る國

松田左馬次又と活る國

松田尾張守兼示彰六郎擲擲る國

小田原乃城之活

中津氏連奉家御下とて降参る國

氏政氏頼自害の國

秀吉の河内凱陣の圖

惣目録終

繪本左圖記五篇卷之一

目録

妙嶽軍之振意

旭生釣山と登る圖

柴田修理進勝家之像

小谷方之像

秀吉大軍討一益活

秀吉御勢及白子邊と敵史一活の圖

中河内之山路九郎を斬る圖

秀吉奇計破一益活

日國

隴川一蓋素名久列左國

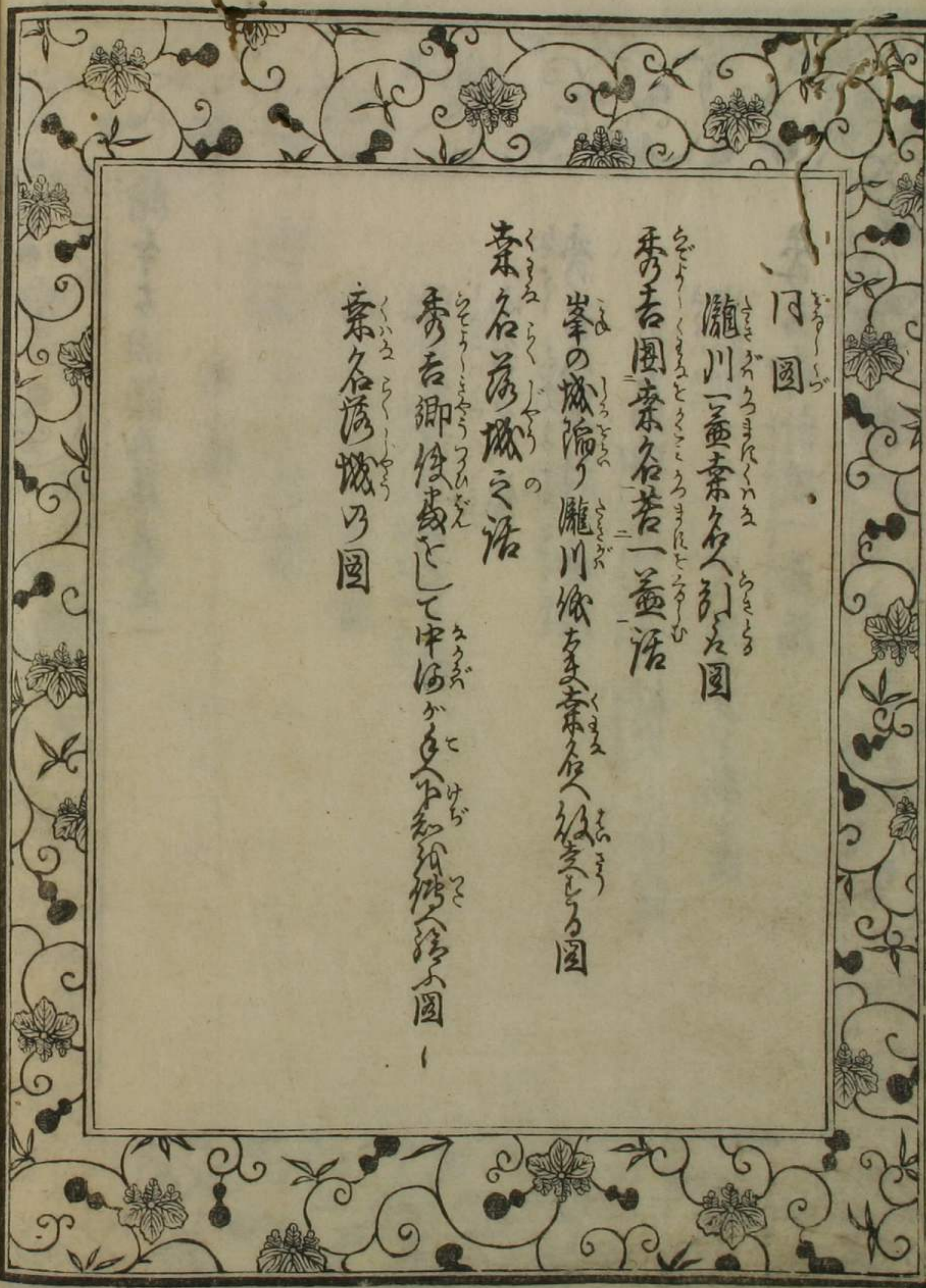
素名吾國素名若一蓋活

峯の城臨り隴川依る素名久列左國

素名吾國素名若一蓋活

素名吾國素名若一蓋活

素名吾國素名若一蓋活



繪本古圖記五篇卷之七

賊箇嶽之軍之執意

夫國家巨とる我を好むとれば則凶なり天下安しとる我を惡むとれば則危し是を戒む我を修む以て不虞に備むるを講じて淑寧を戒むむるに由る孤治兵と曰入ると振旅とつる危を忘るる不戒之計也我國に入ると乾綱絶つと解坤軸おみ碑とん其にいつく天下の諸侯威を争ひ列國悉く我を受る嘉嘉者より天心にむるも生民の塗炭既み極りぬ羽葉羽林平秀を民間より出く信長も仕へ種率より種より今中國の探款して別本の大款とて「毛利の強款」の船山崎一日の合戦は惟任を討くも君の憐りと休め給ひしより其徳風は靡くぬ草木もふる風去日以は百倍とて「海乃政

嘗慰當時兆庶心
德萬武威森金墉萬
維連雲壯天塹千尋絕
地深粉堞樓櫓樹裏倚
圍繫馬綠楊隨人生
忽百年事空有聲名
直到今

東涯



勢けいへふまがむく一且附運は際して龍のおとく飛虎のこく運る東
 畧西征南伐小討大功の運るる機は太陽一ふひおりの万物は照
 られつゝまをさきおとく終つて天下と保し強ひたりも宜なる武意
 母日論懐に入と爰見又相者の日乃照るる亦砥属せんとつて今には
 此世の威風朝輝れおとく後来世と蓋ふの元あらんと思母の靈照
 相者の奇言世の人をく憐れり依て戦國のおひ天下のまならんを
 者お吉の勅諭を見て忌妬をばつとつては故右大臣信長公の三男
 侍従信孝卿の自來兄信雄卿と推て天下に自をまきまほし今
 山崎の合戦は運長光秀と討て大功を立終ふよ跡天下の武お我
 ぶしとあひ居終ふに中お信雄卿は實運純ちうとつとも身に鐵を
 振らして何の面目もく其下はよまんやと兄弟弟年捕ら及びんとは

猶も小秀吉卿の身ひとして故中お信忠卿の云達三法師秀信卿を
 武おの所遺蹟は定め信雄信孝の二卿をみて後見とるはつとも天
 下の政は大小さるゝ悉く秀吉卿の子にありて西御をみてさき
 おくそいふ信孝卿秀吉の威を悪むる甚故は其志と小園乃
 藩領柴田匠作勝家と關東の官領龍川尤近お監一並と通し謀斗
 をみて秀吉とこゝんとは柴田龍川の西雄れえ来秀吉卿の威勢と振
 こり小斗略瓜合陣し信孝卿よよせり秀吉卿より渠を推すべき志
 源きおるに信長公の四臣諸國の勇お多に賞と加へ腕を厚くは既よ
 乞角五郎九郎門長秀吉の三男宮内守秀長公をさし
 侍従明彦公長又是に即定次を妻に信長公の息女をれは先達てその
 侍従清次丸と我忠子とはして服をまて源を外細河公

柴田修理進源勝家
之像



小谷方之像



お多崎編家高山中河邊川路台堰が出来皆秀吉御の旗下に
あり功を伸んとせしげとなり

秀吉大軍討一益

秀吉御の山崎宝寺の陣所を移して世乃勅諭と考へ給ふは三日月
の山園雪消人馬の往來自申と得い勝家大軍を合て参り信孝一
益月附は起り三方より押包で我を討し一りんぞ渠等が謀斗よ
欺き参り雪の消る内は信孝一益を討じ勝家が西陣に援
とて二月十七日率に諸國の味方(回文を合て)令せられけるは秀吉勢州
表津依と云きの同春廿日より廿三日と云軍勢を借長じは及参付(あ
つまじ)を石に押しく勢様(お)と定り孔入と云きと乃勢之是れは
て國の大小名郡村の至終くも勢とあり(體)日限は先立りおれと迄

集せる者二人あり九を勢六万余勢大は及はせし先達せり秀吉御の
性馬也弓張炮乃兵二万五千余人勢勢都合七万八千余勢分つて是を
に隊と如し一は合牙兵隊秀長孫七郎秀次(秀吉の弟は三佐法印
村弥次母の)を大おとしてお計まね入候はる遠後但馬守編家伴孫入
乃一徹及氏家と澤及森と所長一を旗大おしてを勢二万余勢濃品
阜波(向)に信孝を押し(む)りいりまき勅去湯小川伏居守修及掃
部及一柳市女堰尾及女を旗大おしてを勢二万余勢去依多勢は
より孔入一(一)の勝須賀小(一)即堰休(一)即石控平羽回長門(一)関
長藤守等旗大おして是れ二万余勢若烟口より押て入る秀吉女樂
織り向い給ふを勢二勝(一)先(一)細河(一)八郎中河勢平(一)山右
近川伯耆守後陣(一)信長(一)吹上(一)勢台(一)出羽守次(一)秀吉御の旗本の



舟の吉御
停務白子
放火
入



真景言五篇卷

勢部朝野孫平本下才九勝門小石詰を司りそ勢部と三万余人軍
威強大にこそ之より多し龍川九道に監一蓋をばして諸士と集めてやけ
るに彼孫知恵の羽柴統元信孝勝家が和平の條りやうりやと知小
國いもさ雪清なる先み我國一入一前後をふさばしこの軍三九こそ
まき次分ちり我より秀吉攻めて恐るべし一戦は追まらう破竹の勢ひ
を以て一時は刃を切落へて城を以て入一味方こそ心と由りせし勝家
が小の庭を踏破り賀信孝と武おとけし自ら執権して忽天下と掌ま
握んや只け一舉にあり勉よや方こそ勇まむ既に軍の多り
及びり先龜山の城より龍川三九即依原新公特殿毎國大飛等を
着し道兵に子余人と守りせ峯の城に惣龍川依原まで大おに
て白子と九勝門宮地九内を地敷母等を勢三子七百人長治の城より龍

川源八郎は秀治郎も三子余人一蓋に籠卒の勢日更即九勝門谷橋
忠右衛門山路九郎と小村忠八園部忠兵衛と三被を勢八子
余人へびまき矢石を兼山より用えては兼名の城より籠り敵の勢を
待居り去後より秀吉の天軍神戸白子に充満し矢を放て民屋と焼
孔妨狼藉おびけしうけしは勢部の百姓私財を悉を以て携へ老お
を肩より東西に逃れ南にさすしを強勅大方より龍川一蓋を
と見と大きに怒りあなけしはの秀吉より勢部を依りしはけ方より遂
きに押つけ退らして捨しと先陣若橋忠右衛門山路九郎と小村忠
兵衛と百余人自ら籠卒の兵三子余人を引率し搦りしで秀吉乃
本陣に安くし於てこの先陣中河勢平治秀吉より百余人向ふ合て
陣を以て勢部を以てめりしは双方鉄砲の組体と押出つるはけしてお



中河
園之
山崎九郎左
斬
園

真跡記五篇卷一

出陣は炮城を以て之敷い物乃も肩より之を中より懸渡し去るべし
 又西軍槍と合せ突くことぞ我ひる勢川が先お山槍九郎を先き先い馬
 と懸せ又の槍とやりくと打極り去りけり突き去り中又馬を
 若二誘突隊は前進を惡戦とし龍川勢勇進我後得地くと退れ
 て吐と喚く切てくしが中河勢はさめたるより中河が旗を以て後紅雲が
 糸と交感する程は極の突敵の甲と忌摺雲のどれた馬は騰白柄乃
 長刀の中河勢を分日苗測之を討てては極せよと人者いひり勢は込る
 龍川勢の心中へ面より切入り勢川が先お山槍九郎を先き槍とよて突き
 測之を龍川が先よりさめたるよりさめたるより三折三折我ひが扱つとさめたる
 ことより九郎が咽論を肩うけて長刀をさめたるよりさめたるよりさめたる
 馬のいり首も綱をうけて斬りし人馬りりとも席間を倒れとがさめたる

さめたるよりさめたるより測之が先よりさめたるよりさめたるよりさめたる
 事は得て周よりさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 退きし龍川が先よりさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 軍より忽周の夜天をさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 子龍回本曾兵流市浦浪を助大槍才兵流を先きに進み勢二より余
 勢列風のさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 さめたる中川が備の中へさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 川が勢の勢に打極りさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 て龍川が先よりさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 龍川が先よりさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる
 法はさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたるよりさめたる

貞騷記五篇卷一

川を討て細河より八郎守其山石近陸川宿老守使くと
くく入替く我々が龍川勇とて多し彰子の大軍はくく
くく退くに細河より山中河を周を他つて喰止く我々程は両
勢討死殺を去るは蓋先殊の別おるは備を私に槍爪をて敵
あつて殿してまぶくと引えたるは附日既は西は及夕園のくくけき
敵は構へる斗はあつたを細河守其外の軍は場教巧者の子
密をよば陣と望れく敵は退びるは龍川は心静は日市
まぐ退き態と爰に陣を構へ無を誓く軍威と張る

秀吉奇計破一益

其夜羽柴城守秀吉御諸お集りて下知給ふ龍川一益元
来武略にけつる母のちんがくの合戦味方の旁と流り必は夜討

とるひ有ん先ものおききりちく士率と合し不先とるひあづり
我々別は斗とりは龍川をては是の並ぶがたがぶく如し必は
と修多れは諸お謹で令と取り使くと堅固に守り也の由りなる
アタラ秀吉又お陣跡平次丸秀勝中村孫平次加着孫を味で何
密斗を私を給ふは長りも勢を引込せむくは打えたる是附
夜の神交は極し龍川一益の秀吉御の明君に遠りは今日の合戦は味
方の英意とおるは安うくはひは味方のおきき合して夜の冠は
兵糧とついでに越し羽柴が陣と夜討せんは附は奉名の城は龍
川が居る居室山内中水時丸一兵衛海老名十左衛門等には門を堅め
かく守り居る小ま越つる法より近きけり山の木の洞くはちり
と其の先の日も小ぞ怪し敵兵方や味方の勢とて疑ふに又海

新嘉坡計略圖



真景言五石存卷一

此無史を照し素名を瓜目がけ押来る体一城の軍士甚懼、同て敵に
 見らるるは次死す、と教まらるるに對し、山々峯々一連は松明を燈しつゝ
 素名を向ひ推し、しが沖の船多かり、燃道く漕せ、海濱の先光天
 又たあひきこいふと、見る程は鉄炮の音、激方く御音、三國の音、近くは
 由らにぞ、城兵も、瓜目、今けを、城へ、夜討を、うけらるる、小路ごとく、一魁
 し、こらふ、さう、流し、又馬を、ひて、日市の、益、追く、後進、うら、れ、益、大、よ
 夥る、其、俸、か、く、將、と、け、あ、に、宿、陣、ご、く、我、自、り、引、ひ、城、兵、と、は、獲
 て、敵、勢、を、踏、崩、し、と、俄、に、軍、勢、を、週、夜、討、の、心、郷、と、お、控、て、あ、り、て、ふ
 け、し、れ、素、名、を、瓜、に、し、と、引、ら、る、叔、馬、の、足、を、又、ち、強、ま、く、夕、程、は、素、名、の
 方、の、先、天、と、應、鉄、炮、の、音、あ、い、け、く、は、ぬ、ま、合、戦、を、中、あ、り、ん、だ
 城、て、い、れ、は、し、と、一、益、馬、蹄、の、地、は、け、れ、揺、れ、の、を、弛、る、ふ、跡、より、懸、け、

志きりに起り、素名をの軍兵退来る、お、換、り、れ、は、し、の、一、益、馬、蹄、を、強、ま、る、素
 名、や、向、り、ん、だ、ま、く、油、く、退、来、る、勢、を、や、お、破、ん、と、素、後、と、白、眼、で、ま、ら、る
 し、素、名、を、我、を、城、敵、を、え、ら、し、て、い、け、し、は、じ、と、又、馬、の、尻、と、し、ら、り、け、
 素、名、を、瓜、に、し、と、一、系、に、纏、り、ら、る、寅、の、肘、を、本、城、へ、近、道、く、あ、る、お、ど、に、い、つ
 の、同、ま、り、先、の、先、も、き、ん、ぐ、ま、う、ま、く、あ、り、鉄、炮、の、音、も、あ、り、て、は、し、に、懸、り、
 退、来、る、人、馬、の、音、も、あ、り、て、ま、じ、に、落、き、ま、り、し、の、月、中、を、は、し、と、う、り、素、名、
 と、人、等、は、は、軍、勢、皆、ら、き、れ、ま、さ、い、こ、い、抗、程、か、ん、ど、の、奴、と、ら、る、あ、り、や、と
 喧、く、罵、て、止、は、籠、川、一、益、一、人、の、素、名、の、奇、兵、を、欺、り、れ、ら、り、沙、ま、か、り、
 と、牙、を、嚙、ん、で、怒、れ、ど、素、名、は、冷、は、し、素、名、の、城、中、より、し、一、益、と、向、ひ、の
 お、倉、地、郷、を、ま、ら、り、し、又、十、騎、斗、う、て、弛、来、り、敵、一、介、を、せ、り、て、引、退、
 と、素、名、の、ゆ、ぞ、一、益、孤、心、怒、り、母、の、後、面、の、若、殿、抗、れ、て、は、敵、の、い、お、れ、

一益
橋川
園
名
の



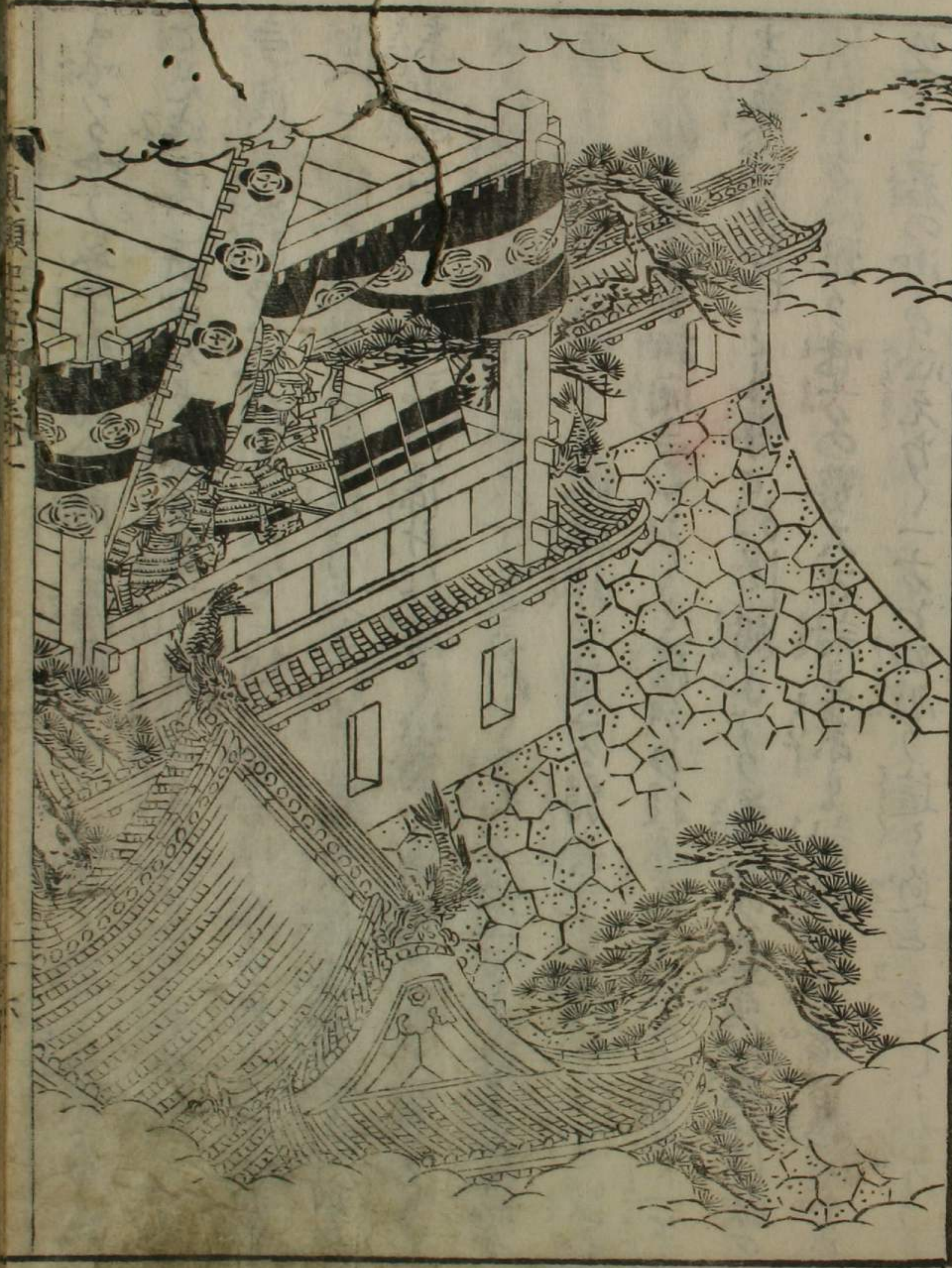
東照宮

へきと人殺を引く終み素名の城よまじいを寺の種をとりくと御音
お心懸し明をんとい

秀吉田原名若一益

頼り明ぬまの船時弥平次九秀勝加友海一中村孫平次を勢引
秀吉の陣一弛ゆる謹でやうの河下知のぶく山を海に渡く
松明舟を焚き置後炮透回方々郷をせ素名と長瀬の両城とあひや
うせし瀧川と狼狽素名引えいよは竹候の者乃河進より軍勢を
引上げ兵隊のいの中は秀吉大いに兵隊のいせを圖をけし兵隊と
引いけりこそ後足せり我々舟帆を今し一益は兵隊進せしり
ししり乃一益粉のまぐりて素名を引えりけ勢いよ押せり
一益は兵隊進せり則諸軍に令とけし素名を引せり押せり

去程に左近お監一益素名の城よ入く秀吉の秀吉を
城戸を堅り矢石兵隊をけりけりけり兵隊をいよの勢を伏せ馬
を伏せしとんぐとぬと驅来り一益飲味方々と矢倉より進し
る小峯の城よ籠らせ置る物の城を今益一益大に兵隊を先城
門を用き向入くそを細を引る小隊を跳きてやうの素名と
蒙り峯の城よ擁籠りおありのたおる兵隊小川を伏せり
友掃部少一柳市女坂尾を助る大軍とて素名を矢石と飛
防ぎ戦いし味方のお向る六九場門官地内敵の悪言は怒り
素名を知り引いけ城戸を用いておておぬ人勇しとんと大敵
かへく城よ向る官地と討死し兵隊と矢より百余人をいよの城
中を兵隊の防衛とすじとる兵隊は敵兵を阻絶し進めず



峯の
城
福里
勝川
係
森名
級交
とろ
園

東國正史入林卷

又呼るやうい素名の城今既よ落城せんといふに又く室と捨て本城
 を見繕ふにけりを中送る武門の情おまの厚き之若抗敵といひ
 きて退城延引みぬといひく大軍一はみ素名に方より火とつけ焼崩
 して言る城中の兵卒皆大に力と落し又落す度とありいれ
 素直に御心を制敵の謀計に落しけ城を落しけりて討るる
 なるに御心堅く防戦せしとまきめく知と較せども白子宮地
 裏より討死と見より懐痛津の付る弱兵ども耳に生る又よば入
 甲より本戸を押開きとらぐと落しけ後み素とせん方より一先
 出城はがむとと勢と引進弱より落出ぬ素に遠り敵の
 伏兵に方に起り味方の勢大に討死と見悟と極めてい
 りども君の御心えり一方と切敵り遠く逃れ素し何やう
 口押くいとけし後を流して拙者い一城の軍兵と皮て又よ河
 を出ぬものなりけりて面を月合に取にしく龜山の城より落武者
 二十騎身馳素り進進する羽柴のお勝原小六郎堰休る即
 る石控平等大軍と押よ味方も勇と振令防ぎ殺しとて
 とも大軍終よ敵ごご搦より討破ら仕瀧川三九郎園大將佐
 右新助切て出討死務殿敵いひつとれ方より落す龜山落城敵い
 と若けし一掃と始ら城兵再び肝と失いといへんと後とる不素
 右の大軍崩のおく押寄旗籠鎗刀を以きりし捕をばと所志と
 押進雨霰のおく鉄炮をおうけ一雨と燃を素破ると嘆き叫んで
 素名を落とさまらむと軍威かり

素名落城

口押くいとけし後を流して拙者い一城の軍兵と皮て又よ河
 を出ぬものなりけりて面を月合に取にしく龜山の城より落武者
 二十騎身馳素り進進する羽柴のお勝原小六郎堰休る即
 る石控平等大軍と押よ味方も勇と振令防ぎ殺しとて
 とも大軍終よ敵ごご搦より討破ら仕瀧川三九郎園大將佐
 右新助切て出討死務殿敵いひつとれ方より落す龜山落城敵い
 と若けし一掃と始ら城兵再び肝と失いといへんと後とる不素
 右の大軍崩のおく押寄旗籠鎗刀を以きりし捕をばと所志と
 押進雨霰のおく鉄炮をおうけ一雨と燃を素破ると嘆き叫んで
 素名を落とさまらむと軍威かり



御
中
河
を
修
人
園

真
景
記
五
十
五
巻

龍川在道隆一蓋士率を勵一矢倉砲完より弓銃砲防方く打出
 兵に防ぎ或はにど勢を大軍とのつてもた右方く表破るる結
 冬軍のいづく日か此にころふ城の内外に助けの勢をく至疾の防戦は
 皆とあふ山峯の西城に向い軍勢皆城を奪ふて悉く棄名を
 集うかと合戦の城に入替表ころふに城の中今退屋防ぎ並てそり
 ころ獲ちぬ二月七日の夜後及後早津戸待後信孝の押にじて向ひる
 羽柴元徳守秀長を討まぬ入敵信照より早打の役秀右卿の存陣に
 別は元徳のいづく秀右其後を迫くして早の候より見送ふに後
 謹でやころい後早侍後信孝後龍寺山の若に軍勢と龍岳堅固に
 龍城敵にいづく味方勢とて二城を奪はし御下あるまはす
 表掛り不中い不けは水國の柴田勝頼大軍と近傍に破早の城後浩

のお龍川はよまきりに月夜よりい棄名表を押の勢を味
 城を只津出馬とれい言とい秀右は後より向い言はるとい後
 不に敵と陣中強立固の夜まといま城を龍川一蓋味方の先の中河
 勢をがよ一候也より一馬にど秀右も瓜打てまきに多し後い後
 石に今龍川が討て出まけ程の龍城は退屋に後討て味方と強じま
 終に敵はんところは味方の先勢也に動は城を堅ら敵引を退べ
 龍川今勢いと秀右より先功の武者強く病に死ねい士率と
 多く候也とい弓銃砲より打とめり頻て下知と他人は後い後
 長うけ有太事小く備也い中河が軍兵銃砲の竹先を並雨の下
 出は龍川勢強て敵も棄名よりかく又城中に打入り中河も大おの下
 を退いて陣と守きりそ疾一蓋一族良等諸大お諸とて悉く



桑名
乃
園



桑名

水門より抜出く磐石の城へ移りて
 松尾川一帯を水原の
 始、信長との幕下の隅に居る城と云ふ
 向ふ不敵て敵なく後、園東
 の菅原は浦で、是智勇佐へ強ひて
 討つてあかぎとく、勝ぬに
 能べき計りありしや、討死し心苦
 しくやとひんてあくと、後、終、是、勝、ぬ
 見、勝、く、り、の、換、之、疾、明、ぬ、ま、は、城、を、守、り、難、兵、二、百、騎、斗、門、と、用、き、勝、陣、一
 蓋、が、逐、電、と、告、ぐ、れ、い、叔、と、我、推、奉、に、送、ら、り、今、龍、川、の、諸、將、と、し、き
 されは、信、は、捨、奉、し、何、復、の、み、あ、ん、さ、う、小、園、の、勝、敗、と、討、つ、と、そ、衆、名、
 の、城、は、園、安、藤、さ、一、柳、市、助、山、園、是、作、守、と、止、り、て、一、蓋、の、押、し、龜、山、峯、の、兩、
 を、中、將、信、雄、卿、は、兼、り、せ、二、月、八、日、惣、軍、勢、を、引、率、し、い、ち、長、原、へ、攻、陣、し、
 終、い、小、園、へ、作、候、と、き、柴、田、が、善、信、と、何、い、せ、終、ふ
 繪、本、古、圖、記、五、篇、卷、之、を、終

